

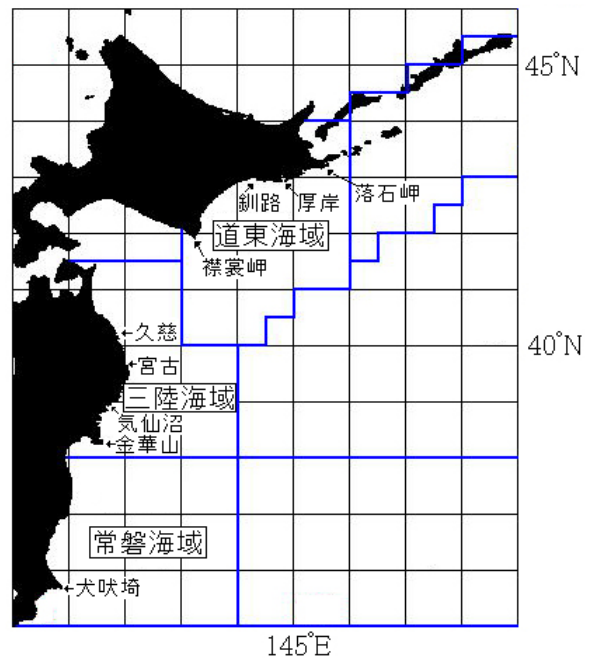
平成26年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2014年10月上旬～11月中旬)のポイント

来遊量

- ・ 道東海域では、10月上旬は中位水準で推移する。
- ・ 三陸海域では、10月上旬～中旬は、低位水準で推移する。
- ・ 常磐海域では、10月中旬になると、断続的ではあるが来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課
担当：渡邊、松尾
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

独立行政法人水産総合研究センター
当資料のホームページ掲載先URL
<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成26年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2014年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

10月上旬～中旬は中位水準で推移する。10月中旬以降は減少し、10月下旬は低位水準、11月上旬は断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

10月上旬～下旬は、落石南東沖～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

来遊量は徐々に増加し、10月上旬～中旬は低位水準であるが、10月下旬～11月上旬は中位水準となる。11月中旬は、中位水準であるが、減少する。

(2) 漁場

10月上旬は、三陸北部に漁場が形成される。10月中旬に三陸南部まで漁場が広がり、10月中旬～11月上旬は三陸北部～南部が漁場となる。11月中旬は、三陸北部の漁場が消滅し、南部に漁場が残る。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

10月中旬は、断続的ではあるが来遊がある。来遊量は徐々に増加し、10月下旬～11月上旬は低位水準、11月中旬は中位水準となる。

(2) 漁場

10月中旬～下旬は、常磐北部に漁場が形成される。11月上旬に常磐南部まで漁場が広がり、11月上旬～中旬は、常磐北部～南部で漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量	→	↘	↘	→	
	動向	中位水準	中位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量	→	→	→	→	↘
	動向	低位増加	低位増加	中位増加	中位水準	中位減少
	漁 場	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部
常磐海域	来遊量		→	→	→	→
	動向		断続的	低位増加	低位増加	中位増加
	漁 場		北部	北部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要（9月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年を上回ったが、低位水準であった。道東海域よりも北東側の花咲港東北東～東沖における来遊量の水準は、前旬を上り、高位水準となった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

道東海域よりも北東側の花咲港東北東～東沖が主漁場であった。道東海域では、落石南南東～厚岸南沖に漁場が形成された。落石南南東40海里～厚岸南30海里付近（14～16℃）では、9月17日夜以降、大型船数隻と小型船数隻～40隻程度操業した。大型船で最高65トン漁獲。小型船は満船となる船が多かった。なお道東海域よりも北東側の、花咲港東北東～東沖（13～15℃）では、多くの船が操業。期前半はやや漁況は悪くなったが、13日夜以降は再び好漁となった。

(3) 魚体

大型魚主体であった。中型以下の魚が1割以下の群れもあれば、3割程度混じる場合もあった。体長31cmモード主体で、大型魚の体重は160～180g台主体であった。

4. 常磐海域の来遊予測について

本予報では、常磐海域への魚群の来遊時期は10月中旬になると予測しているが、その根拠は以下の通りである。

2014年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所が行った中層トロールを使った漁獲調査の結果では、サンマは今年も東経155°以西では、非常に少なかった。このように、今年も前年に引き続き、漁期前調査時に西側の海域でサンマが少ない状況が継続していると考えられる。一方、本調査結果から推定した東経143°～西経177°における推定資源量は、重量ベースで191万トンと昨年の180万トンを上回った。

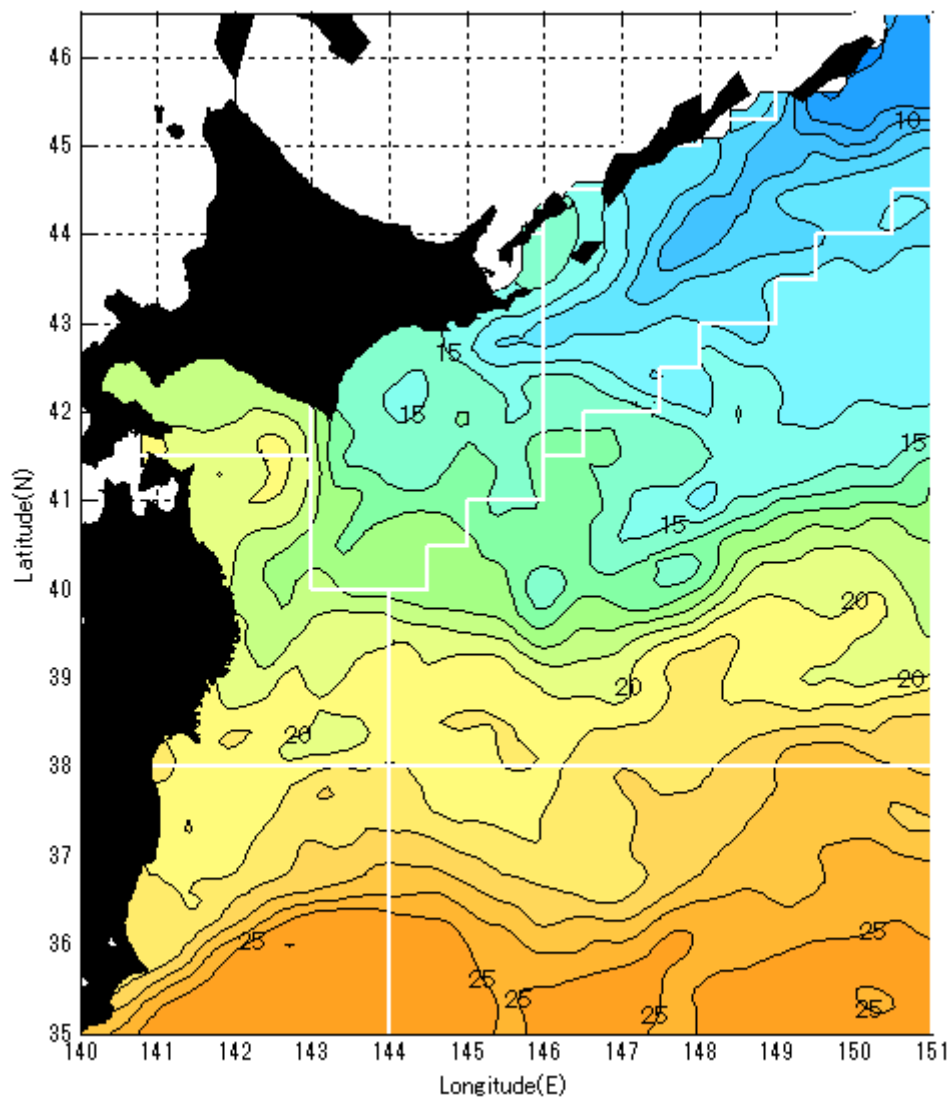
8月中旬～9月中旬までの水揚量の動向を見ると、今年も昨年を上回った。9月14日以降、1日の水揚量が4,000トンを超える日があり、9月中旬の水揚量は、昨年よりも多かった。9月上旬には、落石南20海里～厚岸南40海里付近に漁場が形成された。また漁場の南端は、9月20日夜に襟裳岬東北東45海里付近、9月22日夜に襟裳岬南70海里付近に達した。

現在、道東海域の落石南東沖に暖水塊が存在するが、すでに一部の魚群はこの暖水塊の北側を通過して襟裳岬南沖に来遊しており、魚群の南下は昨年より早い。今年も、三陸海域および常磐海域において、南下を妨げるような暖水塊は存在しない。このことから、魚群は比較的スムーズに常磐沖まで南下すると考える。予測水温分布図では、10月中旬になると例年漁場が形成される18℃台が出現する。以上のことから、常磐海域への魚群の来遊時期は、平年（2001年から2010年までの10年間：10月下旬）よりやや早い10月中旬になる。

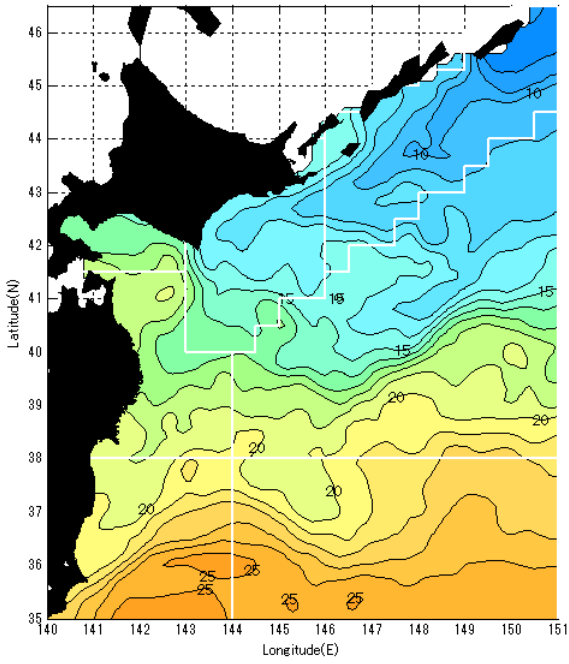
なお、9月中旬における水揚物の体長組成は、大型魚主体である。一方、東北区水産研究所の漁期前調査結果では、東経160°以東の海域では1歳魚の割合が高い。これらのことから、常磐海域における魚体は、大型魚主体で推移する。

5. 予測水温分布図

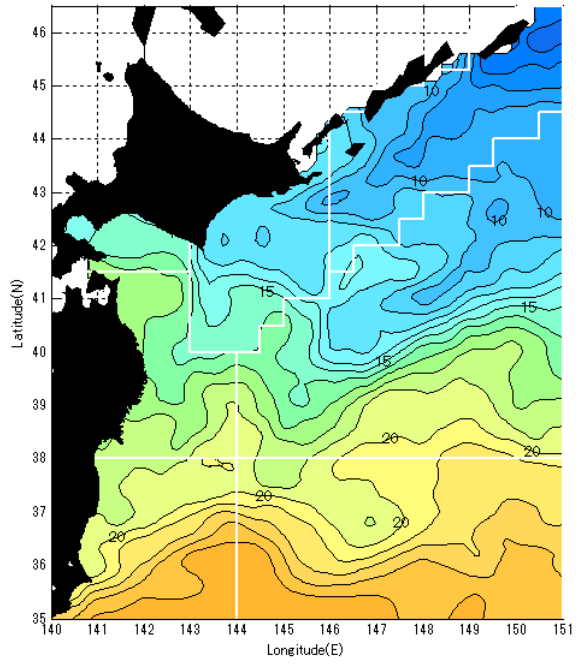
10月上旬予測表面水温分布図



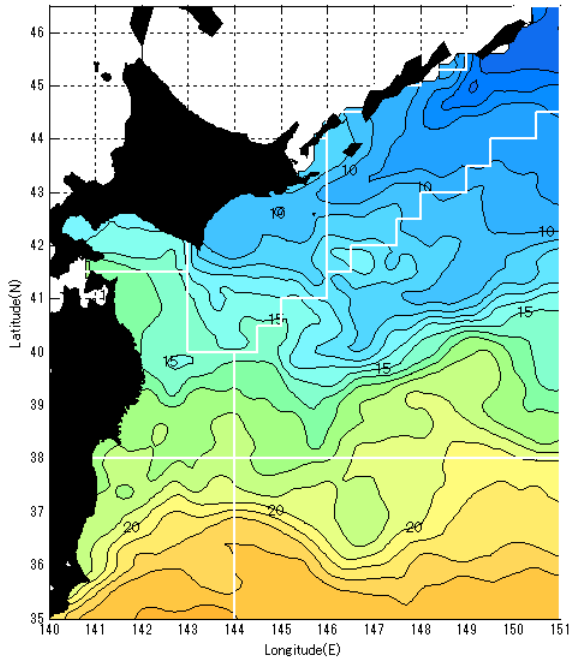
10月中旬予測表面水温分布図



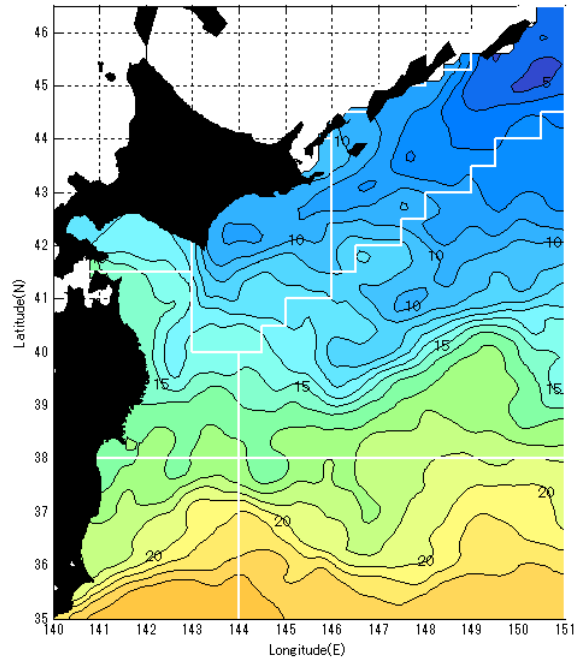
10月下旬予測表面水温分布図



11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---